



組織横断PTや行路外れての担当外業務従事など...

施策への布石は 打たれている?

無自覚が生む惨劇

組合員に限らず、未加入者や他労組組合員も、昨今の会社の動きに不安や危機感を覚えているのではないだろうか？

過日開催された本部第4回定期大会をはじめ、各職場から寄せられた職場実態や各種プロジェクトチーム（PT）の実態に関する声を聞くと、ある考察にたどり着く。それは、5月26日に会社から提案された『**現業機関における柔軟な働き方実現**』の『**基礎固め**』が着々と進んでいるのではないかと、ということだ。

例えば「**組織横断プロジェクト**」では乗務員が兼務発令を受け、**企画業務の傍らで列車に乗務**するとか、ある駅職場では地区センターへの兼務発令を受け、同様に**企画業務の傍らで駅の本来業務**（泊まりあり）に従事するとかいったケースだ。



また、ある乗務職場では**予備勤務**でありながら現場長の命令で突然「**草刈り**」という**担当外業務**の仕事を言い渡されたという。当の職場管理者からは「**現場長判断だから問題ない**」と一蹴された。

会社は『**現業機関における**』施策のイメージを社員に紹介しているが、その**いずれもすでに各職場で**「**成功**」する社員を使つて**進められ、当該施策実施への布石を打っている**と見られる。

PTや担当外業務を担う社員は、その布石に乗った当初は鼻息を荒くするだろうが、当該施策を実施する頃には、**図らずも自分たちや後を継ぐ社員の働く場所を失う**かもしれないのだ。ゆえに、こうした社員の方々には、自分たちの身を削り、専門性を否定するような施策であることに気付いてほしいところである。

良かれと思って引き受けたプロジェクトや会議等でもやがて自分や仲間の働く場所が失われるかも!?

輸送サービス労組

不安に感じたら労働組合へご相談を!